

目次

編集に当たって

横浜ゴムは2000年から環境保護活動をまとめた「エコレポート」を発行してきました。横浜ゴムグループは本年5月に公表した新中期経営計画「グランドデザイン100 (GD100)」の基本方針のひとつに「トップレベルの環境貢献企業」を掲げ、「グローバルな環境経営」、「環境貢献商品の開発」、「トップレベルの環境対応」を目指すことにしました。こうした企業姿勢を明確にお伝えするために本報告書の内容を見直し、併せて名称を「環境・社会報告書」としました。

対象範囲

横浜ゴム及び国内外の子会社・関連会社の環境的、社会的、経済的側面。

対象組織

横浜ゴム及び国内外の子会社・関連会社。ただし環境パフォーマンスの集計範囲は横浜ゴムの8生産事業所。なお、「サイト情報」において、横浜ゴムの非生産事業所及び子会社・関連会社の生産事業所及び非生産事業所の環境パフォーマンスについて、その一部を掲載しています。

対象期間

2005年4月から2006年3月。大きな進捗状況があったものは2006年7月まで記載。

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」

GRI「持続可能性報告書のガイドライン」

* GRI=Global Reporting Initiative

次回発行予定

2007年9月

注)

MB：マルチプル・ビジネス(多角化し、拡大する事業)の略。タイヤ以外の多角化製品(ホース、接着剤、コンベヤベルト、航空部品など)を指します。

見直しに関する注意事項

本報告書の記載内容には、現在の事実だけでなく、将来の予測、計画、目標などが含まれています。これらは現時点で入手できた情報に基づく仮定ないし判断であり、不確実性が含まれています。実際の業績は、横浜ゴムの事業活動だけでなく、世界経済の動向、地球環境の変化などに影響を受けるため、本報告書に記載した予測、計画、目標が実際とは異なる可能性があります。読者の皆さまには、このことをご承知おき下さいますようお願い申し上げます。

トップレベルの環境貢献企業を目指して.....	4
代表取締役社長 南雲忠信	
企業理念 環境基本方針 新中期経営計画「GD100」.....	6
横浜ゴムグループの概要.....	8
コーポレートガバナンス.....	10
環境貢献商品	12
環境貢献商品への取り組み.....	12
さらなる環境貢献商品提供企業を目指して.....	13
タイヤ.....	15
MB商品.....	19
3Rの推進.....	21
環境経営・環境対応生産	24
環境経営.....	24
環境経営中長期計画.....	26
環境マネジメントシステム.....	28
環境負荷の全体像.....	30
グリーン調達・グリーン購買の推進.....	32
環境対応生産.....	33
廃棄物の削減.....	34
地球温暖化対策の取り組み.....	35
物流の改善.....	37
化学物質の管理.....	38
水・大気・土壌などへの対策.....	39
環境コミュニケーション.....	40
環境会計.....	41
社会と共に	42
株主・投資家と共に.....	42
お客さまと共に.....	43
従業員と共に.....	45
地域社会と共に.....	48
知的財産の保護.....	50
サイト情報	51
国内生産事業所.....	52
本社・国内外関連会社.....	60
PRTR対象物質の管理.....	66
大気・水質関係測定データ.....	68
環境データ収集拠点.....	70
環境保護活動の歩み.....	71
「社会・環境報告書2005」アンケートについて.....	72
第三者所見.....	73
編集後記.....	73